

～ はじめに ～

栗石町内4地区では「地域づくり計画」を策定し、地域づくり会議の開催や地域の特色を活かした各種取り組みを進めております。町は、協働のまちづくり推進に向け、地域活動や仕組みづくりの支援を行っています。

平成27年度の計画策定以来、これまでも様々なチーム活動を展開してきたほか、昨年度には地域の活動状況についてヒアリング調査を実施し、地域の現状と課題の把握に努めてまいりました。

今年度は平成30年度に開催した「地域の組織活動を考える会～地域のこれからを語ろう～」と題した円卓会議で共有した内容を踏まえ、「**地域が地域課題を解決する仕組み**」を考える場として、地域運営組織形成に向けた準備検討が各地区で開催され、地域の実情に応じた内容で協議が行われました。協働のまちづくりの実現に向けた「できること」として、役の負担軽減や行事の見直し、地域連携などについて地域主体の目線で考える機会となっています。さらには、行政内部でも協働のまちづくりの実現に向けた庁内会議が開催され、地域力が最大限に発揮できる施策の検討が各課で行われました。

また、今年度もこれまでと同様、4地区ごとに**特色あるチーム活動**が展開されました。栗石地区の「雪灯り&はしご酒」、御所地区の「鶯宿温泉活性化イベント～出張足湯～」、御明神地区の「どろリンピック」、西山地区の「にしやま大運動会」など、どれも地域の想いがカタチとなった素晴らしいものとなりました。閉校した校舎を活用し、地域活動の拠点として様々な事業を展開している「旧大村小学校利活用実行委員会」の取り組みもまた、住民主体の活動として地域を盛り上げています。

＊

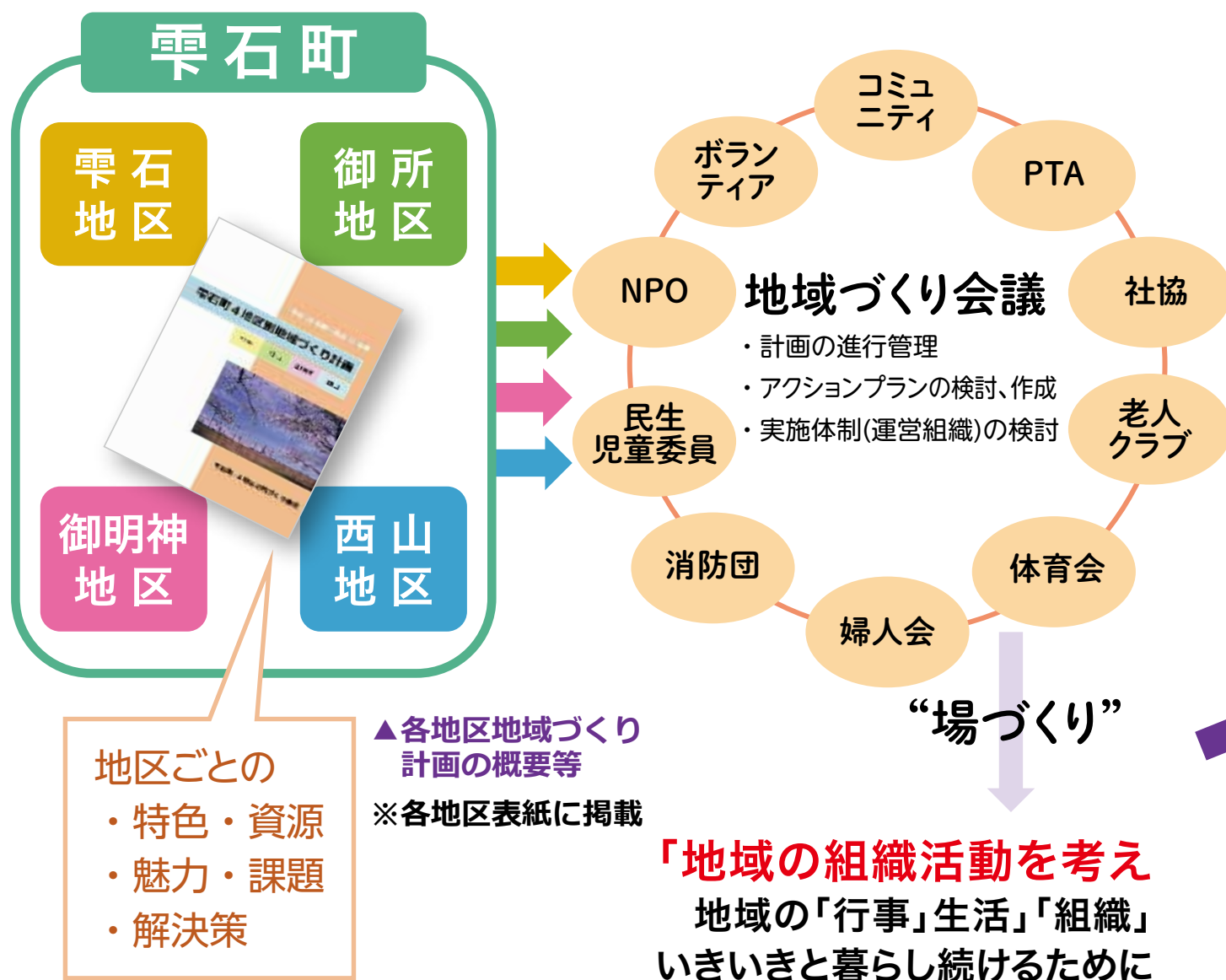
「しづつな特別号」では、地域コーディネーターが、今年度の活動を通して、みて・きいて・感じたことをまとめ、活動の内容とともに掲載しています。

ぜひ、地域の今を共有し、地域のこれからに向かって走り出すきっかけにしていただけると幸いです。

地域でどんなことができるか。地域に何が必要か。
団体・組織の枠を越えて話し合い
実践をする場！

まちの未来について 地域づ

目的：人口減少が進む中、地域コミュニティやまちづくりを
住民が主体となって地域づくりの基本方針について4
を進め**地域で支え合う力を強化**することを



本音で話し合うプラットフォーム

くり会議とは？

支える様々な団体の枠を越え、地域の課題解決について、
地区ごとに策定した「**地域づくり計画**」に基づき取り組み
目的に活動しています。

▼各地区の取り組み
※P5～20に掲載

(仮称)

「**地域運営組織形成準備会**」開催(R1～)

地域住民が「できること」で地域に関われる仕組みづくり
について、有志住民で話し合いを行っています。防災や除雪
の地域連携や、役の見直しなど、まずは「やってみる」が、住
民主体の取り組みとして始まっています。

“
場
づ
く
り
”
“

地域課題の解決

地域の持続

住民の自立
地域の活性化

る会」を開催(H30 各地区全3回)

について話し合い、人が減っても地域で
「できること」案がたくさん出されました！

旧大村小学校利活用の取り組み

平成29年から平成30年にかけて、統合により町内の小学校は10校から5校となり、小学校としての役割を終えた5校について、利活用の検討や取り組みを進めています。

その中で、旧小学校を「地域の拠点」として活用するため、実行委員会を組織して活動している旧大村小学校の取り組みについてご紹介します。

【背景】

御所地区の南畑小学校・大村小学校・安庭小学校の3校が、安庭小学校校舎を使用して「御所小学校」として統合し、平成29年4月に開校しました。

閉校した大村小学校の利活用については、閉校前の平成28年12月から、地域懇談会の開催や町民からの提案募集、行政需要の調査などを行いながら、利活用の方向性を検討してきました。

【利活用方向性の決定】

地域懇談会や提案募集、行政需要の調査などから、平成29年11月に町人口減少対策本部会議(町長、副町長、教育長、町所属長で組織)において、旧大村小学校の利活用の方向性を「地域の拠点(地域コミュニティ活性化施設)」として一体的に利活用していくこと、当初は町と一緒に、将来的には地域が主体となった運営を目指すことで決定しました。

【実行委員会の立ち上げ】

平成30年1月には、地域住民による「旧大村小学校利活用実行委員会」が組織され、約20人のメンバーによる「地域の拠点」としての具体的な利活用の話し合いが始まりました。

【まずはできることから】

実行委員会の話し合いの中で「まずはできることから」ということで、産直や食堂を運営する「収穫市」を開催しています。

平成30年度は、春・夏・夏特別篇・秋の収穫市として4回土日開催し、令和元年度は、5月から11月までの第2土日を基本に収穫市を毎月開催しました。

活動のコンセプトは、大村小学校校歌の歌詞から「希望の学舎(まなびや) 山ふところ」に決定し、産直や食堂運営のほか、移住体験ツアーと連携した「みそづくり」や「わら細工体験」なども行いました。

【今後に向けて】

実行委員会では、旧大村小学校が「地域の拠点」となるように、話し合いをしながら、取り組みを進めています。旧小学校がこれからも地域にとって親しみやすく、皆さんが集まれる場所となるように、地域の皆さまのより一層のご理解とご協力や、活動へのご参加をよろしくお願いします。





栗石地区

地区の概要 ※R2.1末現在

【面積】 31.5 km²

【人口】 7,881人

【高齢化率】 33.1%

計画の概要

【20年後に実現したい姿】

「住む人 訪れる人を元気にする町 しずくいし」

栗石地区には、栗石駅や商店街があり、栗石町の都市機能を担う中心的な地区であるとともに地区外から来訪者を迎える顔となる地区です。そのため、栗石地区は町全体における役割も意識し、先人の歴史や活動も活かしながら、栗石地区に住む人たちが自分たちのまちを楽しむことを通じて、町の玄関口・中心地として明るいエネルギーを発信する地区を目指します。

【活動方針】

【活動メニュー】

1

美しい景観を
活かしたまちづくり

- ①自然景観の保全・活用
- ②栗石川園地の桜並木の保全
- ③「栗石勝手に十景」の発掘と発信

2

既存施設の活用促進と
祭りでのにぎわいの創出

- ①既存施設の活用
- ②栗石駅を中心とした交流の促進
- ③お祭りのにぎわい創出

3

安全・安心なまちづくり

- ①通学路・ウォーキングコースをみんなで守る
- ②冬でも安心して暮らせる除雪対策の充実
- ③防災意識を高め地域を守る

4

世代を越えた交流による
みんなが元気な地域づくり

- ①気軽に参加できるコミュニティをつくる
- ②元気な子供を地域のみんなで育てる
- ③元気なお年寄りを増やす
- ④行事への参加者を増やす

5

商店街を活性化し、
地域の元気を発信する

- ①キラキラと輝く商店街化
- ②まちおこしセンターをみんなが気軽に利用できる場所に
- ③産直(無人販売所)のPR強化による活性化

6

人をつなぎ
伝統文化をつむぐ

- ①歴史・伝統文化の伝承

7

地域の役と行事を見直し、
誰もが関われるまちづくり

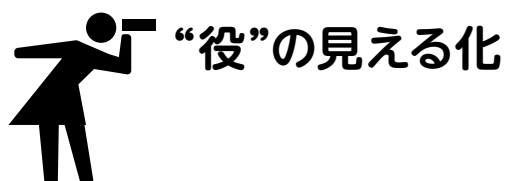
- ①行事実施 役のスリム化



雫石地区地域づくり会議 「地域の役を見直す会」

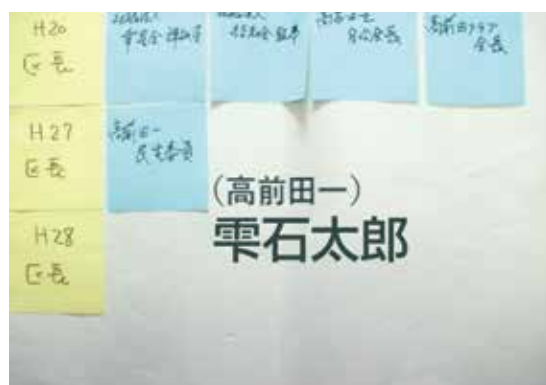


雫石地区では“準備会”という形ではなく、まずは既存の“役”を整理して、それから新しい取り組みに向かっていこうという考えから、地域の区長経験者さん8名をメンバーとして“地域の役を見直す会”という形で今年度開催をしました。



“役”の見える化

まず初めにメンバーの自己紹介を兼ねて、参加者の方々が持っている“役”を付箋に書いていただきました。地域の皆さんは区長経験のほかにはたくさんの“役”をもっていっぱいしました。



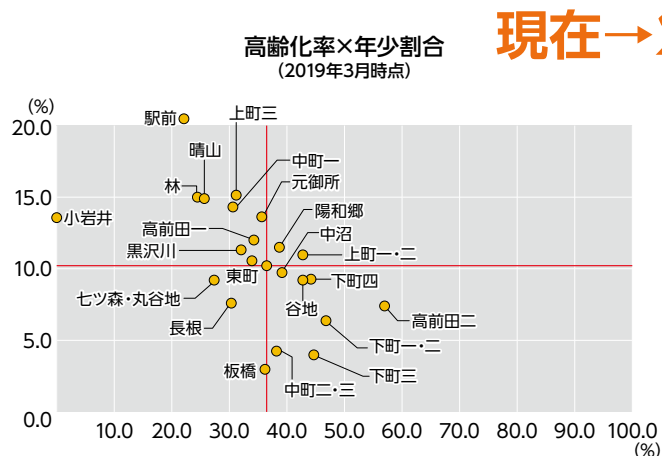
A3用紙に名前と“役”を貼りだしていただきました



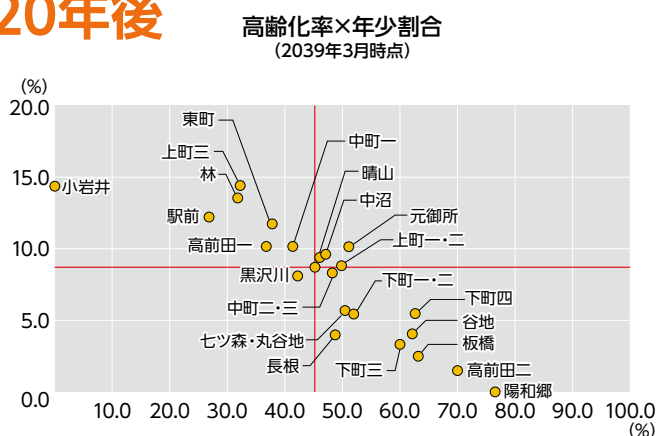
“将来”の見える化



自分たちの住む行政区ごとに“現在”と“20年後”の高齢化率と年少割合をグラフに落とし込みました。雫石町全体でみると“少子高齢化”が進みますが、各行政区ごとでみると人口が増える地域もあります。地域ごとの状況を見ることが必要です。



現在→20年後



これから来る時代に備え、地域の行事や役の見直しが必要

“地域の役を見直す”といっても、地域には様々な“役”があります。

今回はより具体的な成果に結びつけるため“区長の役”を取り上げて、“役の見直し”を進めることにしました。いただいたご意見は令和2年度から実施される“新区長制度”の改正への参考にさせていただきます。



“役”の見える化

ひとことに“区長”と言っても、地域の組織の形態により様々な“区長”がいることがわかりました。



皆さん区長



“役割”の見える化

地域の業務には組織の形態により“区長の業務”“自治会長の業務”“公民館長の業務”にばらつきがあることがわかりました。

	区長	自治会長	公民館長
一般的と思われる役割	行政とのパイプ役 区長配布の配布・仕分け 集金等の取りまとめ 会議等の出席依頼に対応	役員会 事務局との連絡調整 自主防災 道路愛護 お互い様情報交換会	施設管理 公民館のカギ管理 公民会費集金 掃除当番決め、当番表配布 公民館なし(上町三)
これはだれの業務かな?	行政区の会費の集金／住民の声を行政へ伝える／道路愛護／体育行事の参加／公民館のカギ管理／夏祭りの開催	一人暮らし見守り(高前田一)／登下校見守り／転出入管理(上町一二)／防犯灯の球切れ交換／地域の道路補修依頼	広場の草刈り／体育行事の推進／夏祭り／新年会
こんなこともやってます	冠婚葬祭(林・中町一) 小言を聞く係(中町一) 行事にはほぼ参加(晴山)	空き家の管理(高前田二) 消火栓などの地域点検(林) 住民のもめ事の仲介(上町三)	土地の契約担当(中町一) 運動会のおにぎり(晴山)
グッドアイデア	防災訓練とBBQを一緒に開催(上町三) 自主防災活動&収穫祭でさつまいもを一人暮らしへ配布(黒沢川) グラウンドゴルフで親子スポーツ(林) イワナのつかみ取りやミズキだんごなど(林)		



組織の見える化

“組織”の見える化



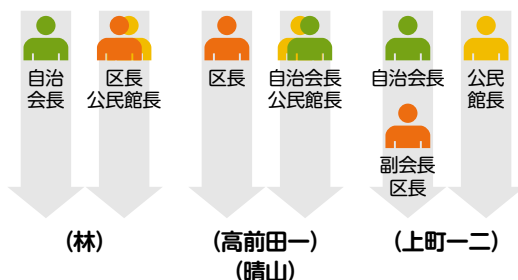
各行政区の組織のイメージ図を作成していただきました。さまざまな形が見られましたが、大別すると3つのタイプに分類されました。

皆さんの行政区はどのタイプに当てはまりますか？

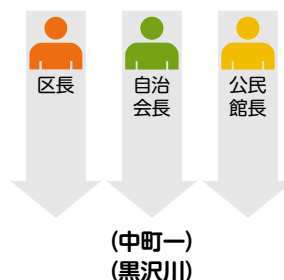
ワントップタイプ



ツートップタイプ



スリートップタイプ



“区長”“自治会長”“公民館長”それぞれの役割と業務を明確化したうえで、棚卸しが必要



令和元年度実践活動紹介(雫石地区)

様々な行事やイベントが行われている雫石地区。様々な団体や組織との連携による、たくさんの人々が関われる“地域づくり活動”が今年度もたくさん生まれました。

Renovation Disaster prevention リノベ × 防災 Work shop



行政・社協・NPOや町民が合同で豪雨災害等で床下浸水した家屋の泥出し等に関する基礎知識を学ぶことを目的とした取り組み。和室と洋室の二畳ほどの床下模型を作り、ボランティアフェスティバルで展示をしました。9月にはその床下模型を使い実践に役立つ講習会を開催。講習で得た知識を持って、台風19号で被災した普代村へボランティア活動に参加をし、実際に床下浸水した家屋の床板をはがしたり、泥出しを行いました。

みんなに優しい道づくり

地道な活動を続けてきた道づくりチーム。

今年度は大きな成果が二つ生まれました!一つは昨年度実施したよしゃれ通りの歩道幅実証実験を得て、よしゃれ通りの歩道幅が広くなりました。さらにはメンバーの要望により、しずく×CAN横に防犯灯が設置されました。「よしゃれ通り推進会議」や「よしゃれ通り活性化委員会」と共に、さらなる優しい道づくりを目指して取り組みを行っています。



しずくいし 雪灯り&はしご酒



にぎわいの創出や交流を目的にして活動している雪灯り&はしご酒。今年度は“雫石商工会青年部”も交え“よしゃれ通り周辺JV.”と“地域づくり会議”の共催となりました。雫石中学校の生徒のボランティアや、各地区学童などの子ども達に雪灯りの経木に絵を描いてもらったり、みんなが関わる雫石の冬の一大イベントとなりつつあります。

しあわせのおくりもの

雫石のみんなをしあわせにしたい!誰もがしあわせに暮らし続けるまちづくりを目指して、今年度新たに生まれた活動です。今年度は2月22日23日にまちおこしセンターしずく×CANで子どもの体内記憶をたどるドキュメンタリー映画「かみさまとのやくそく」の上映会を開催しました。





御所地区

地区の概要 ※R2.1末現在
【面積】 193.9 km²
【人口】 2,666人
【高齢化率】 39.1%

計画の概要

【20年後に実現したい姿】

「遊びと癒しの都・御所 ～打ち上げよう みんなの夢～」

御所地区には、御所湖や鶯宿温泉のほか、クロスカントリースキー場、ゴルフ場等のスポーツ施設や、雫石町歴史民俗資料館など、優れた自然資源や交流・レジャー施設があります。これらの地域の資源を、住んでいる私たちが暮らしの中で楽しみ、また地域外の人に楽しんでもらい、交流を通じて、御所の魅力を満喫できる地域づくりをすすめます。

【活動方針】

- 1 自然とともに生きる地域をつくる
- 2 地域の歴史を伝承し、“地域愛”を育てる
- 3 暮らしの安全を地域住民が守る
- 4 世代と世代をつなげ、まとまりのある地域をつくる
- 5 イベントと観光をつなげ、多くの人を呼び込む!
- 6 地域の役と行事を見直し、誰もが関われるまちづくり

【活動メニュー】

- ①自然を生かした遊びの提供
- ②自然環境の整備
- ①地域遺産の保全
- ②地域遺産を活かしたイベントの開催
- ①“見守り”の強化・充実を目指した横軸連携
- ①交流しやすい環境づくり
- ②交流イベントの開催
- ①既存施設の有効活用イベントの充実、地域の情報発信力の強化
- ②温泉街の活性化
- ①運営体制と役の負担のスリム化
- ②行事の見直し



今年度の取り組み (体育会との意見交換会)

人口減少、少子高齢社会に対応するため、地域主体での取り組みや組織形成がこれまで以上に求められることになります。御所地区での今年度の取り組みをまとめました。

地域の課題①

ポイント1 人口減少

【御所地区】

- ・現在
2,746人
↓
- ・20年後
1,700人

1,000人
減

ポイント2 少子高齢化

【御所地区】

- ・現在
39%
↓
- ・20年後
49%

2人に1人
高齢者

地域の課題②

H30年「考える会」より

ポイント1 参加者不足

ポイント2 負担が大きい

ポイント3 伝承・後継

「地区民運動会や体育行事に参加してくれない」
「参加者を集める区長さんや班長さんの負担が大きい」
「伝統行事の後継者がいないため、続けていけない」

一歩進むための糸口

地域と行政が話し合い、検討する場

「御所体育会との意見交換会」

第1回:2019/7/11

第2回:2019/9/5

第3回:2019/12/5

第4回:2020/1/15

第5回:2020/2/17



運営体制
見直し

組織の
見直し

一緒に
考える

- ・ 体育会座談会を開催しよう！
- ・ 理事会のあり方を見直そう！

まとめ

御所体育会会長 高橋 利一さん

少子高齢化や仕事、趣味の多様化により、年々体育行事に参加していただける行政区も減っている中で、町政サービスの実施など様々な要望により、公民館職員の仕事量が増えていることがわかってきました。

そんな昨今、広報12月号に掲載されていたアンケート結果から、運動することを重要に感じている方が大勢いらっしゃいました。また、様々な分野での交流や地域間の連携は満足度が低いのですが、反面大切だと思われる方が大勢いらっしゃることも分かりました。

地域の皆さんが顔をあわせ交流してもらえよう、そして楽しく住みやすい御所地区にしていくためにアイデアを出し合い自立できるよう、体育会も変革していきます。

キーワードは「地区民の交流と健幸」です。



チーム活動紹介 (御所地区編)

地域づくり計画に基づいた実践を進めている御所地区チーム活動のこれまでをまとめました。特色ある地域づくりに向け、より大きな広がりを目指します。

〈御用聞きチーム〉

“見守り”の強化・充実を目指した横軸連携

地域の現状把握と課題解決に向けた組織の連携を目指しています。



住民アンケート



御用聞き通信



民生委員との協働

〈きのこそばチーム〉

世代と世代をつなげ、まとまりのある地域をつくる

きのこやそばの栽培など農業体験を通じて、子どもを中心にした世代間交流を行っています。



きのこ植菌



そば打ち



さつまいも栽培

〈鶯宿温泉活性化チーム〉

イベントと観光をつなげ、多くの人を呼び込む！

まちあるきイベント「思ひ出さんぽ」実施など、温泉街の活性化を目指しています。



思ひ出さんぽの実施



出張足湯



いわて雪まつり



御明神 地区

地区の概要 ※R2.1末現在

【面積】 177.8 km²

【人口】 2,345人

【高齢化率】 41.4%

計画の概要

【20年後に実現したい姿】

「里山と清流のもと 人と人が紡ぎ合う 理想郷・御明神」

御明神地区にはJR春木場駅、赤湊駅、道の駅があり、地区内交通の起点があります。また、竜川、田園風景、各地の植物や名木など、豊かな自然とそれを活かした産業、歴史、町内唯一の花火大会がある御明神夏まつりを継続・発展させます。

【活動方針】

1

各世代のつながりを強め、いきいきと暮らせる地域をつくる

2

住民が地域の宝を守り、伝える

3

自然の魅力を再確認し、地域内外に情報を発信する

4

農業などの働く場としての魅力を高め、活力ある地域をつくる

5

御明神の特色を生かした活力ある地域をつくる

6

地域の役と行事を見直し、誰もが関われるまちづくり

【活動メニュー】

- ①子育て世代からのつながり発信
- ②子ども・お年寄りが集える場の創出
- ③地域の安心力向上

- ①誰でも気軽に来られる歴史スポットづくり
- ②保存活動を通じた地域内交流の活性化

- ①観光サインの設置と景観スポットのPR
- ②御明神ならではの自然と触れ合う環境づくり

- ①魅力ある農業の発信
- ②働く場としての魅力発信

- ①夏まつりの継続・発展
- ②魅力を広めて交流・定住促進

- ①事業や行事 役のスリム化
- ②行事への参加者不足



今年度の取り組み

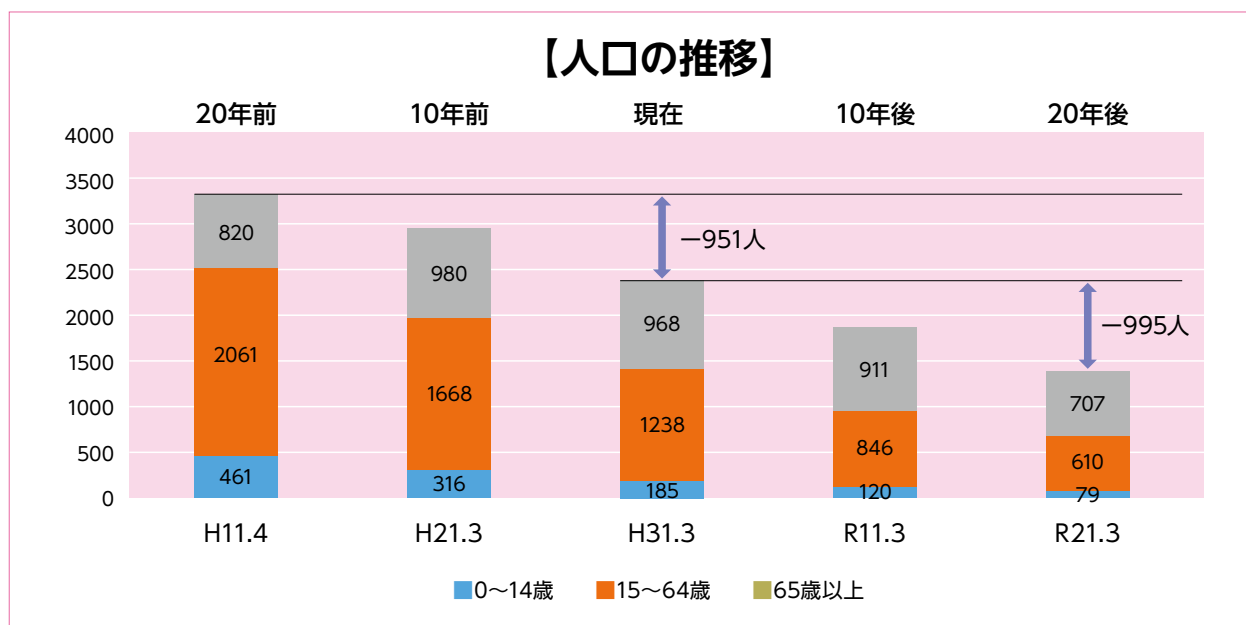


近年、人口減少や少子高齢化、生活スタイルの多様化に伴い、今までと同じ仕組みではうまくいかないことが多く出てきました。

そこで今年度は御明神地区内において、近隣の集落同士で連携することを目指し、20年後の地域を想像しながら、行政の支援のもと、若い地域住民の方々と話し合いを進めてきました。

第1回 地域づくり会議 運営準備会(8/22)

20～50代の4名の地域住民の方と公民館職員などが中心に集まり、『20年後の人口予測を見てどう感じたか』『平成25年の豪雨災害時の状況について』話し合いました。



【参加された方のご意見】

どんどん人が減っていくので、行政区をくっつけていかなくては？

集まった人だけでなく、みんなで集まって、みんなで自分たちの地域について話し合う場があった方が良いのでは？

役を減らしたいけど、地域の中にも色々な組織があって難しい

いざ災害となったときに(組織として)機能しない可能性もある

第2回 地域づくり会議 運営準備会(11/28)

第1回の意見を踏まえ、第2回では『連携できそうな地域について』話し合いました。

御所地区で実際に集落同士が連携している事例、また昔は一緒だった行政区や人口資料などを参考にし、その結果、すでに体育行事を連携して出場している

【旧橋場小学校区(橋場・安栖・小赤沢・山津田)】が候補にあがりました。

【御所地区連携事例！矢九町！】

矢櫃行政区 矢櫃自治会	九十九沢行政区 九十九沢自治会	町場行政区 町場自治会
・総会 ・花見 ・草刈り ・自主防災訓練… etc	・新年会 ・総会 ・花植え ・自主防災訓練… etc	・総会 ・花見 ・草刈り ・自主防災訓練… etc
子ども会		
体育行事(野球・バレー・壮年ソフト・卓球)		
お互い様情報交換会(自治会必須事業)		
堀合神社祭り(例大祭)		

地域コミュニティ必須事業
“お互い様情報交換会”を
行政区合同で行っているところ
はココだけです！
「災害がおこったときに、隣
集落の公民館の方が避難
するときに近くて安全なこ
ともあるので、合同でやる
ことにすごく意味がある。」
と代表の方は言います。



【昔は一緒だった！行政区の変遷！】

昭和32年4月 10行政区

●安栖・橋場 ●小赤沢・山津田 ●滝沢・南・天瀬 ●天川・中南 ●中島・黒沢
●上春木場・下春木場 ●上和野・和野・上野沢 ●横欠・土橋 ●岩持・谷地・下川原
●まがき野・真賀喜・菊栄

昭和34年3月 全行政区が分離し、まがき野が真賀喜に入って23行政区になる

昭和55年4月 真賀喜と菊栄が一緒になって、まがき行政区となり、22行政区になる

令和2年1月 現在 22行政区

『雫石町史 第二巻』より

地域づくり会議 旧橋場小学校区～防災連携に向けた話し合い～(12/19)

これまでの運営準備会の意見と平成25年の豪雨の時に特に被害が深刻だったこと、駒ヶ岳の火山災害警戒地域に指定されていることをふまえ、実際に旧橋場小学校区の4つの集落の自治会長や区長と『防災で連携の可能性』をテーマに話し合いをしました。その結果、『連携はできると思う』となりました。話し合いの中では、お互い様情報交換会や防災訓練を一緒にやってみたらどうか？また、区長ができる世帯が4集落とも少なくなってきたこと。など、防災以外の意見も多く出ました。



会議に参加された方だけでなく、旧橋場小学校区(橋場・安栖・小赤沢・山津田)にお住まいの皆さんがどのようにお考えか、アンケートを実施中です！(1/26現在)



御明神地区チーム活動紹介



御明神の特色を生かした活力ある地域をつくる

→“夏まつり盛り上げ隊”として活動をしています!!



とうろう
づくり



舟っこ
づくり



ビール
売り



とうろうづくりや舟っこの飾りづくりで今までよりたくさんの地域の人たちに関わってもらえるように活動してきました。

また、当日もビールを売って、盛り上げました!!



自然の魅力を再確認し、地域内外に情報を発信する

→自然で遊ぶ機会をつくり、御明神っていいな!を再確認する場に!



第2回
どろリンピック



落ち葉を
使ってやきいも
食べよう!



第2回どろリンピックは、町内外や遠くは海外からの参加者も、みんな泥だらけで楽しみました!

冬の初めには、落ち葉を拾い、皆で焚火を囲みながら、自然っていいなを実感しました!





西山地区

地区の概要 ※R2.1末現在

【面積】 205.6 km²

【人口】 3,302人

【高齢化率】 39.1%

計画の概要

【20年後に実現したい姿】

「岩手山と共に生きる 魅力が満載 ふるさと西山」

岩手山をはじめ豊かな自然であふれる西山地区は、そこに暮らす人々や訪れる人々に様々な恩恵を与え続けてくれています。そのひとつひとつが西山の「魅力」であることを再認識し、町内外にもその「魅力」を知ってもらうことで西山の未来を守り育てていきます。

【活動方針】

1 岩手山の恵みを守り、
親しめる環境にしよう

2 地域の資源を活かし、声かけ
と交流で安心なまちにしよう

3 西山の魅力を資源に育て、
稼ぎ、生きて行こう

4 西山の歴史と伝統を
みんなで学び、受け継ごう

5 地域ぐるみの世代間交流で子ども
にふるさとの魅力を伝えよう

6 人と自然の魅力で地域を
越えた交流を広げよう

7 地域の役と行事を見直し、
誰もが関われるまちづくり

【活動メニュー】

- ①地域に愛され、ともに歩む文化の拠点づくり
- ②自然は大切に手をかけて磨いていく

- ①元気な高齢者が支える地域づくり
- ②地域のつながり強化・交流促進
- ③地域活動の拠点の充実

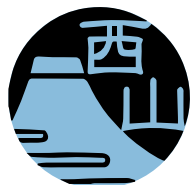
- ①外貨を稼ぐ
- ②農林業・畜産業の大切さ、魅力を子どもに伝える

- ①西山の歴史と伝統の継承
- ②お祭りの継続と活性化

- ①世代間の交流づくり
- ②地域ぐるみで支える子ども環境づくり

- ①住民参加型イベントの企画
- ②西山地区を体験して知ってもらう（魅力発信）

- ①行事实施 役のスリム化
- ②行事への参加者不足



今年度の取り組み

西山地区は、地域団体の代表に集ってもらい、団体の連携を図りながら、地域運営を目指すべく、『地域運営に向けた検討会』を4回開催。この会での話し合いを受けて『地域連携に向けた検討会』を1月に開催。

—地域運営に向けた検討会—



第1回

“現在”と“20年後”の高齢化率と年少割合をグラフにし、地域の実態を「見える化」。地域運営の必要性和未来について議論。

参加者からの意見

- ・何かあった時、高齢者を支えていかなければ。
- ・災害の時、枠を越えたつながりが重要。
- ・集落の特徴を生かした工夫を見習い、共有。



第2回

「地域ができる一人暮らしの高齢者を助け合う仕組み」をテーマに、住民から出された課題を選び、課題解決できる仕組みを検討。

A班 高齢者の見守り

B班 除雪課題



コーディネーター
(事務局)



この2つ、必要！



組織同士の
つながり



第3回

実際に地域が連携し、地域課題を解決している事例を参考に、西山で実現可能か、西山に合う組織体制を検討。

A班 高齢者の見守り



B班 除雪課題



コーディネートする人(事務局)が必要!

- ① 小学校区ごとにやってみては?
- ② 五区を中心にできないだろうか?
- ③ まずは、近隣行政区と連携してみては?



第4回

「除雪課題」について、行政区単位や小学校区単位で、自分たちが実践できそうな解決方法を具体的に検討。

上長山小学校区単位でまずは地域の連携から!

—地域連携に向けた検討会—

4回の会議を踏まえて、“運営”よりもまずは“連携”から!ということで、今まで考えてきた案を自治会や行政区の代表へ提案し、ともに地域連携のあり方について検討する会を1月30日に開催。

① 上長山地区自治会・行政区の
代表者話し合いによる連携
(地域の情報を共有し、助け合える場をつくろう)

② 除雪実行部隊の
参加体制の構築を検討
(自分たちで、できること、できるところからやってみよう)

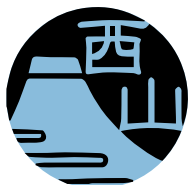
共通の想い

「5年後、10年後のために仕組みづくりは必要!」



今後は地域みなさんにご意見をいただき、
来年度から取り組みに向けた協議を行います。
ご協力よろしくお願いします!





今年度のチーム活動

あいさつチーム

挨拶で顔見知りを増やし、
地域の安心安全を強化！



←ヤッホーかるたで
世代間交流のお手伝い

県中生とコラボ！
にしやま大運動会の
横断幕づくり→



西山マップ チーム

作成したDEEP西山マップで
産業、歴史を町内外へ発信！



しずくいし産業まつりへ
森林鉄道展を出展！



にしやま大運動会 実行委員会

PTA、体育会とともに
地域住民の交流の場づくり！



大人から子供まで
参加・応援で
大盛り上がり！

